



# [teeta]



## 「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



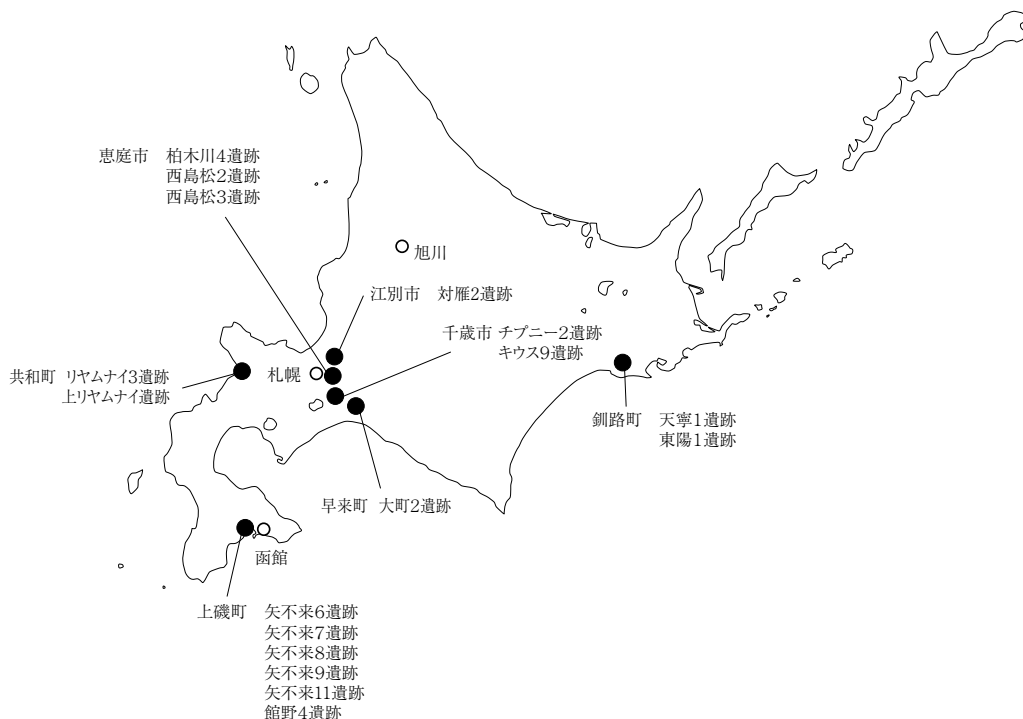
千歳市美々 8遺跡出土品（擦文～アイヌ文化期 重要文化財）

○平成17年度発掘調査遺跡 .....	2
○平成17年度の調査 .....	3
○重要文化財「北海道美々 8遺跡出土品」について.....	6
○人事異動.....	8

○平成17年度発掘調査遺跡

委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	摘 要	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	チブニー2	千歳市	1,300	縄文時代晩期、擦文時代の遺物包含地
			キウス9		17,000	縄文時代早・後・晩期、擦文時代の集落跡
	石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	対雁2	江別市	3,650	縄文時代晩期～続縄文時代の遺物包含地
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	矢不來6	上磯町	4,400	縄文時代・続縄文時代の遺物包含地
			矢不來7		6,359	縄文時代中～後期の集落跡
			矢不來8		5,600	縄文時代中～後期・続縄文時代の遺物包含地
			矢不來9		2,000	縄文時代中～後期の遺物包含地
			矢不來11		4,900	縄文時代の遺物包含地
			館野4		7,400	縄文時代中～後期の遺物包含地
	館野		整理作業			
	小樽開発建設部	一般国道276号岩内共和道路工事	リヤムナイ3	共和町	6,100	縄文時代前期の集落跡
	上リヤムナイ	1,300	縄文時代の遺物包含地			
室蘭開発建設部	一般国道234号早来道路改良工事	大町2	早来町	2,400	縄文時代晩期～続縄文時代の遺物包含地	
釧路開発建設部	一般国道44号釧路外環状道路改良工事	天寧1	釧路町	2,341	縄文時代晩期の遺物包含地	
		東陽1		400	縄文時代の遺物包含地	
網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路改良工事	服部台2ほか	白滝村		整理作業	
国土交通省北海道開発局計				65,150		
日本道路公団	北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	森川3	森町		縄文時代前期の集落跡
			三次郎川右岸			縄文時代中～後期の集落跡
日本道路公団計				0		
北海道	石狩支庁	柏木川改修工事	柏木川4	恵庭市	14,140	縄文時代前～晩期・擦文時代の集落跡
			西島松2		800	縄文時代早～晩期・擦文時代の集落跡
			西島松3		8,635	縄文時代後～晩期の墓地
			西島松5			整理作業
	北海道計				23,575	
合 計				88,725		

(平成17年4月22日現在)



## ○平成17年度の調査

### 千歳市キウス9遺跡

遺跡は、キウス川の南側の標高約18mから27mの台地上にあります。縄文時代早期からアイヌ文化期までのさまざまな遺構、遺物がみられますが、主体的にみられるのは擦文時代のものです。特に竪穴住居跡は調査前の地表面から四角い窪みが数カ所で確認されました。これらは平面形が隅丸方形で、炉やかまどを持ち、4本の柱で上屋を支える構造であったようです。住居の覆土や掘り上げ土からは多数の擦文土器のほか、紡錘車や土玉などがみられ、時期は8世紀頃と考えられます。このほか特徴的な遺物として、縄文時代早期の石刃鎌が20点以上出土しています。



竪穴住居跡調査前写真

### 江別市対雁2遺跡

遺跡は、JR江別駅の北西約4kmの石狩川左岸、世田豊平川との合流地点より上流側の河川敷地内にあります。今年で7年目の調査になります。これまでに縄文晩期後葉～続縄文(約1,700～2,500年前)にかけての土坑・焼土等の遺構、土器・石器等の遺物が多く確認されています。この遺跡は、狩猟や漁労等を行う際に一時的に利用された場所と考えられ、繰り返し使用されていたようです。

写真は、今年度に確認された土坑のひとつで、炭化した大量のクルミと焼けて橙色になった焼土が検出されたものです。土坑の中でクルミを焼いたものと考えられ、数回にわたって使用されたようです。



土坑調査写真

### 上磯町矢不來6・11遺跡

遺跡は、上磯町市街地から直線距離で約5km南西、上磯町から木古内町に向かう国道228号から山に入った海岸段丘上の標高60～65mにある縄文時代後期を主体とするものです。二遺跡は台地上の緩斜面に隣接して立地しており、調査面積は矢不來6遺跡が4,400㎡、矢不來11遺跡は4,900㎡です。

矢不來6遺跡では竪穴住居跡1軒、焼土8カ所、約60m南西の矢不來11遺跡では焼土4カ所および集石2カ所を検出しています。遺物は両遺跡合わせてコンテナで25箱ほど出土しています。いずれも調査中のため検出遺構数・遺物点数はさらに増加すると思われます。



調査状況

### 上磯町矢不來7遺跡

遺跡は、JR茂辺地駅の北方約1km、茂辺地川左岸の低位段丘（標高約30m）及び高位段丘（標高約38m）に位置します。昨年度は、高位段丘部分の一部で調査を実施しました。今年度は、低位段丘部分を中心に調査中で、主に縄文時代後期後葉の遺構・遺物が出土しているほか、縄文時代中期前葉、後期前葉の遺物も少量みられます。

遺構は、竪穴住居跡、焼土、土器・礫の集中地点が確認されています。竪穴住居跡のうち6軒は、竪穴が埋まりきっておらず、地表から窪んだままの状態を確認することができました。最大で、直径約10m、深さ約1mに達する大型の窪みもあります。

調査は10月末まで続く予定です。また、今後、北東に位置する矢不來8・9遺跡についても調査を実施する予定です。



調査状況

### 共和町リヤムナイ3遺跡

遺跡は、共和町の西端、日本海に面した標高約7mの海岸砂丘にあります。昨年度からの継続調査で、縄文時代前期前半期を主体とした遺構、遺物が見つかっています。石器製作に関連した剥片の集中域や炭化クルミを伴う焼土があり、ほかに20本余りの石斧がまとまって見つかった地点（集石）もあります。土器は道南部の春日町式に相当する押引文や刺突文、羽状縄文、縄文の施された土器群です。尖底と小さな平底のものがあります。石器はたたき石、台石等の礫石器のほか、石鏃、スクレイパーが多く出土しています。また、隣接した段丘上にある上リヤムナイ遺跡も調査しています。



遺跡近景

### 早来町大町2遺跡

遺跡は、JR早来駅から北東0.8kmの大町地区市街地の北東端、馬追丘陵の南側を流れる安平川の支流ニタッポロ川左岸の河岸段丘上（標高約20m）にあります。昨年度からの継続調査で、昨年度調査区は、現在早来バイパスとして片側1車線の暫定開通をしています。

アイヌ文化期では鉄製品（刀子）が出土し、周辺には焼けた礫のまとまりと焼土が確認できました。続縄文時代では生活痕跡である焼土（焚き火の跡）や柱穴とともに土器（後北C<sub>1</sub>式）・フレイク・礫の集中地点が見つかりました。

今年度の続縄文時代の焼土の中には、焼けた骨が大量に含まれているものがあり、食生活などの復元が期待できます。



縄文時代の調査状況

### 恵庭市西島松2・3遺跡

遺跡は、JR恵み野駅から北西に約800mの柏木川とキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約28mの沖積低地上に位置します。調査は遺跡の北側に位置する西島松5遺跡から継続して行っているもので、今年度で6年目になります。

遺跡では二つの河川に挟まれた狭い尾根の調査を行っており、縄文時代晩期後葉～続縄文時代の土坑墓、縄文時代・擦文時代の住居跡、Tピットなどがみつかっています。

縄文時代晩期後葉のものと考えられる土坑墓は、5m×5mのグリッドごとに8～10基が検出され、現時点で約130基が確認されています。おそらく今年度の調査範囲内で200基を超えるものと予測されます。



土坑調査状況

### 恵庭市柏木川4遺跡

遺跡は、恵庭市街地から北西に約2km、柏木川右岸の河岸段丘上にあり、標高は約45mです。平成16年度からの継続調査で、今年度は14,140㎡を調査する予定です。これまでの調査で擦文時代の竪穴住居跡、縄文時代の土坑、焼土などの遺構を検出し、土器、石器、鉄製品、木製品など多くの遺物が出土しています。擦文時代の竪穴住居跡は2軒検出され、出土した土器から、8世紀中頃のものと考えられます。どちらも焼失した住居で、“すのこ”状の炭化材や糸を紡ぐ時に使用した紡錘車などの遺物も出土しました。また、竪穴住居跡の周辺からは、編物石に使用したと考えられる小礫や鉄製品の破片などがみつかっています。

写真は、竪穴住居を掘り上げた時に、周囲に盛った土がドーナツ状に広がっている様子です。



竪穴住居跡掘り上げ土検出状況

### ○表紙解説

美々8遺跡出土食用具類。鉄鍋、炉鈎、火鑽棒、火鑽板、杓子、匙、篋、箸、剝物容器。建物跡や「物送り場」の周辺から出土したもの。この他に桶や樽、曲物、漆塗折敷、漆塗椀が多数出土している。

○重要文化財「北海道美々8遺跡出土品」について

平成17年6月に千歳市美々8遺跡出土品（擦文～アイヌ文化期）が重要文化財に指定されました。ここでは、遺跡の概要と指定された出土品の一部について説明し、写真を掲載します。

考古学では河川、湖沼、湿原（泥炭地）の縁辺から水面下に立地する遺跡を「低湿地遺跡」や「低湿性遺跡」と呼んでいます。このような遺跡には、当時の構築材や木製生活用具をはじめする各種用具、食糧品などが風化・腐植をせずに残されています。

新千歳空港建設に先立って発掘された千歳市美々8遺跡は、千歳市と苫小牧市の境界を東西に流れる、美沢川左岸の標高2.5m～20m前後に立地しています。旧石器時代～アイヌ文化期（中・近世）にいたる複合遺跡です。なかでも低湿地部の擦文～アイヌ文化期の交通、集落、漁撈、送り場等に関する遺構・遺物が特徴的です。

樽前a降下軽石層＜1739年降下＞や樽前b降下軽石層＜1667年降下＞の上下の層からは、斜面を昇降した道跡、アイヌ墓、舟着場、建材群、舟小屋、幣棚（ヌササン）、立杭列、杭穴列、水場遺構、炉跡、灰送り場跡、錘石（ピッ）などの集中箇所がありました。これらは相次ぐ樽前山の噴火による水位上昇で、アイヌ集落（コタン）が埋没したものです。

遺物には、生業や日常生活に関わる多種多様な用具類が見られ、伝統的な自製品と和産物などの移入品が混在しています。用具にはアイヌの所有を示す祖印（イトクバ）や印（シロシ）が刻まれるものが多くあります。

ここで紹介した美々8遺跡出土品の一部は、北海道立埋蔵文化財センターで展示・公開されています。9月16日（金）から11月20日（日）まで特別展示「千歳市美々8遺跡展」を、また、9月17日（土）13：30～15：00に秋季講演会「美々8遺跡の木製品とアイヌ民具について」を開催します。多数の方々のご来館をお待ちしております。



調査前写真



調査状況



舷側板出土状況



メカジキの線刻がある櫂



飾金具 (擦文時代)



アイヌ文様彫刻



山刀柄



回転式離頭鉈中柄・指掛部



煙管 (雁首、吸口)



舟垢汲



花矢と矢柄



花矢



木幣

捧酒箸



魚突鉤鉈台部



底面に印 (シロシ) のある漆塗椀



制裁棒

## ○人事異動

### ○採用

総務課参与 加藤英樹 (4月1日付)

### ○転入

総務部長  
牧野義則 函館美術館副館長から (4月1日付)

第2調査部第2調査課主任  
宗像公司  
北海道教育庁生涯学習部文化課主任から (4月1日付)

### ○転出

佐藤英一 (総務部長)  
北海道教育庁企画総務部教育政策課主幹 (4月1日付)

越田賢一郎 (第1調査部普及活用課長)  
北海道教育庁生涯学習部文化課主幹 (4月1日付)

中田裕香 (第2調査部第2調査課主任)  
北海道教育庁生涯学習部文化課主任 (4月1日付)

### ○昇任

第1調査部普及活用課長 田中哲郎  
第1調査部普及活用課主任から (4月1日付)

第1調査部第4調査課主査 菊池慈人  
第1調査部第4調査課主任から (4月1日付)

第2調査部第1調査課主査 笠原 興  
第2調査部第1調査課主任から (4月1日付)



### ◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
  - ・JRバス (文教通西循環線)・夕鉄バス (文京台南町行) に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
  - ・JRバス・夕鉄バス (江別方面行き) に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分